

富内者に然るべしといふ嘉平の人物に
黒田柳平谷 由我なり

殘熟未全退き處 適即佳勝を望む

述と這回武富尾等と姑の勅任を奉

任る歳尚ほ他も新向長等志未

進々新鮮の空氣朝廷入り為國

家要況而して司法支部進伝に新

空氣の注^入は頗る遺憾なき所又

現由閣の爲の取らざるにあり時^は其の

易く機は難しし此機會を^一失し出

東能の又十分を野^に他の新空氣と

のき之と同時に腐敗物^を悉く掃除

清潔法の大著である國^の家の爲め

切望する所なり而して一方は是れ

此由國の爲の取らざる可なり時、其の
易く機は難ししは機會を失しし
東能の又十分を野に他の新氣と
なき之と同時に腐敗物の去る掃除
清潔法の大基をあらんとて國家の爲の
切實なる可なり而して一方は是れ其
要者に對し其の國の人物にして
こと暗に謀計ありては其の牽聯し
ざるも其の事なきは其の國の
と候たりしは其利莫き物とせば
能くその事なきは今日之事業に
大東漸にあるは其の能きとせば
亦其の事なきは其の事なき

九月一日

直林

大隈大兄研北

其の事なきは
市中